

第 124 回 フランス第二帝政と第三共和政

1 ナポレオン再び

- ・ () により、ルイ=ナポレオンは独裁者となった。
→1852年、さらに国民投票によって皇帝となった。



ナポレオン3世

☆ () (1852~1871年)

◆ () (在位 1852~1871年)

- ・ ナポレオン3世は、叔父の名声を利用して、ブルジョワジー・労働者・農民の利害を巧妙に調整し、独裁的な権力をにぎった(ボナパルティズム)。
- ・ 1860年、英仏通商条約を結び、自由貿易による産業育成をはかった。
- ・ セーヌ県知事オスマンに命じて全面的な () を行った。
→現在のパリの原型を造り、1852年にはデパートも作られた。
- ・ 1855年と1867年には、パリで () を開催した。



フランス政体の変遷の風刺画

右の七月王政から、左の第二帝政に至る、権力者の移り変わりを表している。全員わかるかな？



オスマン知事(右端)パリがあるセーヌ県の知事として、都市の整備を行った。左端はナポレオン3世。



パリの凱旋門



シャンゼリゼ通り

広くまっすぐな道がひかれ、有名なシャンゼリゼ通りなどが整備されたのもナポレオン3世の時代である。彼は「馬上のサン=シモン」と呼ばれ、多くの社会政策を実施したため、近年評価が高まってきている。

2 ナポレオン3世の対外政策

- ・ ナポレオン3世は、国民からの人気を維持するため、積極的な海外進出を進めた。
→各地で行われる様々な戦争に、干渉していった。

- ・ 1853年に始まる () へ介入してロシアに勝利した。
→1856年、パリ条約をまとめあげた。
- ・ 1856年、イギリスとともに () を戦い、清に勝利した。
- ・ 1858年、スペインとともに () を行った。
→1862年、サイゴン条約でコーチシナ東部を獲得した。
- ・ 1859年、 () に介入した。
→ () と () を獲得した。
- ・ エジプトでは、1859年に着工したスエズ運河が1869年に完成した。



ロシア皇帝ニコライ1世

ロシアはクリミア戦争の敗戦で、伝統の南下政策が大きな打撃を受けた。思い悩んだニコライ1世はうつ病になり、戦争中に急死。国際関係が複雑なので、第128回で詳しくやります。



破壊された円明園

アロー戦争により、乾隆帝がカスティリオーネに建てさせた円明園は、完全に破壊された。現在も廃墟の状態で一般公開されている。第76回、146回を勉強しよう。



サルデーニャ王国宰相カヴール

イタリア統一戦争では、ナポレオン3世とプロンビエール密約を結んでいた。第125回でその背景を勉強します。

3 第二帝政の終焉

- ・数々の海外進出の成功により、ナポレオン3世の人気は非常に高まった。
→しかし海外進出が失敗すると、政権は大きく揺らいでいった。

- ・1861年、イギリス・スペインとともに（ ）を行った。
→オーストリア皇帝の弟マクシミリアンをお飾りのメキシコ皇帝とした。
→メキシコ人の抵抗やアメリカの抗議によって失敗に終わり、国民の人気を失った。
- ・1870年、プロイセンの宰相ビスマルクの挑発にのり（ ）を始めたが、敗れて（ ）で捕虜となった。
→1870年9月、第二帝政は崩壊し、臨時国防政府が成立した。
→パリに進軍したプロイセンは、1871年1月、ヴェルサイユ宮殿でドイツ帝国の成立を宣言した。



マネ作「マクシミリアンの処刑」

フランスに見捨てられたマクシミリアンは、メキシコ兵に捕えられて、処刑された。印象派の画家マネは、絵画の一部をわざと事実と異なるように描き、ナポレオン3世を非難した。



ナポレオン3世とビスマルク

普仏戦争に関しては、第126回でプロイセン側の視点でも勉強しておこう。スタンで捕虜となったナポレオン3世が、プロイセンの宰相ビスマルクと話をしている。この後ナポレオン3世は退位して亡命した。

4 パリ=コミュンと第三共和政

- ・1871年1月、フランスはドイツに降伏し、普仏戦争は敗北に終わった。
→臨時政府は、屈辱的な講和条約により、（ ）と（ ）を統一したばかりのドイツに奪われてしまった。

- ・1871年3月、屈辱的な内容に反発するパリ市民は、（ ）という自治体を組織して臨時政府に抵抗した。
※これは史上初の労働者による政府である。
→（ ）を中心とする臨時政府はドイツの支援を得ると、「血の週間」という戦闘を経て徹底的にパリ=コミュンを鎮圧した。
→1871年8月、ティエールは初代大統領となった。
※この政治体制を（ ）という。

<第三共和政の特徴>

- ・1875年、（ ）が制定された（大統領の権限は弱い）。
- ・ナショナリズムが高まり、政教分離やフランス語の強制が行われた。



ティエール

ボルドーに国民議会を招集し、臨時政府を成立させた。激動の19世紀フランスを生き抜いた政治家である。



バリケードを作るパリ市民

実現はしなかったが、史上初の女性参政権を規定するなどした。激しい弾圧で、パリ=コミュンは3万人の死者を出して崩壊した。



ジャンヌ=ダルク像

名もないひとりの少女が、突如フランスの英雄とされたのは、実はこの時代である。各地に像が建てられ、現在でも英雄とされている。